

ながいも高支柱栽培の収量と品質

野菜研究所

ながいもの受光体制を良好にし収量水準を改善するため、支柱高及び栽植様式についての試験を行い、収量、品質に及ぼす影響を明らかにしたので紹介します。

支柱高の違いによる茎葉の状況



- ◆ **高支柱（270cm）**
ネット全体につるが展開し
受光体制が改善される。



- ◆ **標準支柱（180cm）**
ネットの上部で繁茂した
つるが垂れ下がり重なり合う。

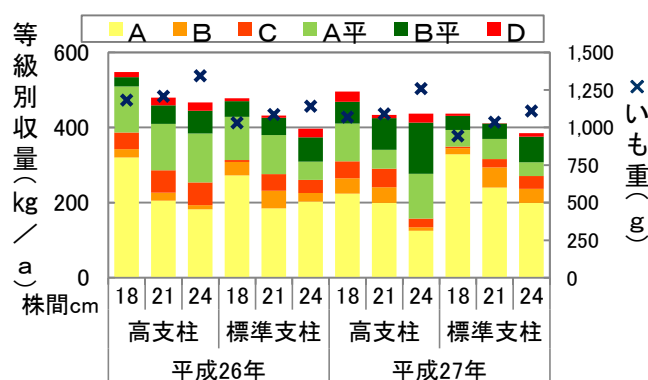
耕種概要

供試系統：園試系 6
植付時期：5月下旬
種いも：1年子
種いも重：130～140g

試験区の構成

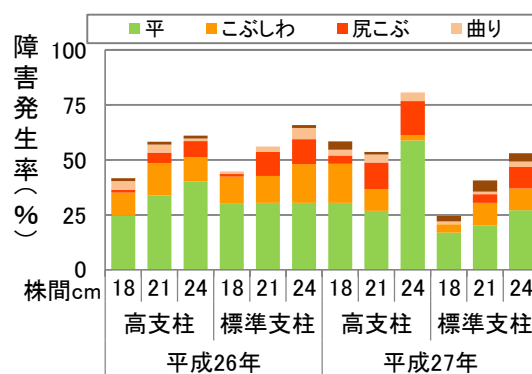
支柱高：180cm、270cm
株間・窒素施用量
18cm・8.0kg+4.0kg×3回
21cm・6.9kg+3.4kg×3回
24cm・6.0kg+3.0kg×3回

等級別収量



- ◆ 高支柱区は標準支柱区に比べ、いも重が増加した。また、密植で多収となった。
◆ A品収量は、高支柱区と標準支柱区とで年次によって傾向が異なった。

障害発生率



- ◆ 高支柱区では、株間を広げるほど平いもの発生が顕著に増加した。
◆ 尻こぶの発生は、支柱高にかかわらず株間を狭めるほど少ない傾向にあった。

高支柱栽培による影響

- ◆ いもの肥大が促進され、特に密植で多収となった。
◆ 平いもの発生が多くなる傾向があったが、株間18cmの密植にすることで平いもの発生は軽減され、尻こぶの発生も減少した。



「ナガイモ高支柱栽培における収量・品質」の詳細は、平成29年度指導参考資料「ながいも高支柱栽培の増収効果」(<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/H29y2.pdf>)に掲載されています。

お問い合わせ

野菜研究所 栽培部 (Tel 0176-53-7171)